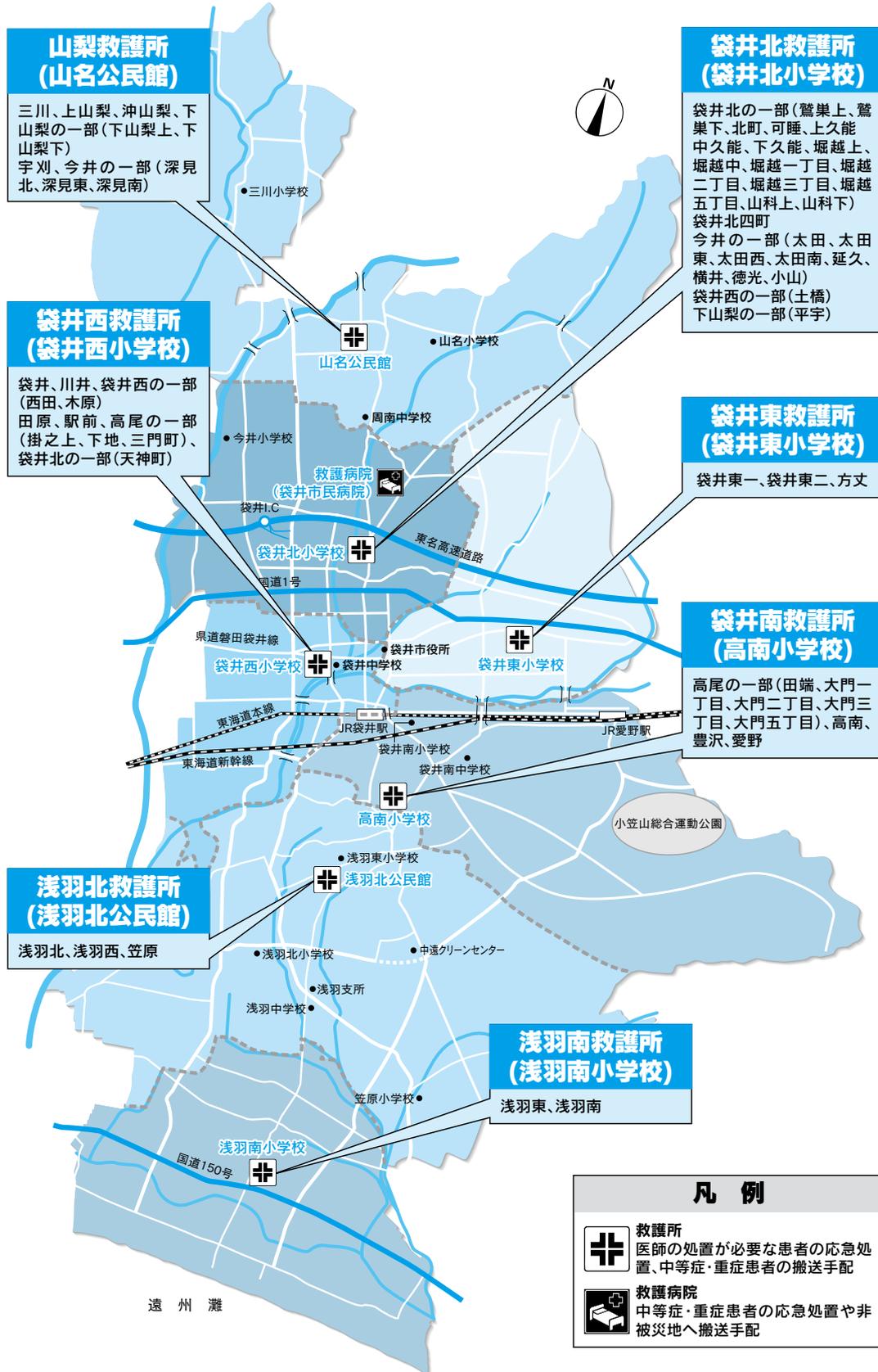


市内の救護所一覧

◇救護所は、自治会ごとに分かれています。自分の救護所の場所や道順、所要時間などを日ごろから把握しておきましょう。
 ◇災害時に救護所を利用する際には、最寄りの救護所を利用してください（自治会にかかわらず、どの救護所も利用できます）。



災害時特有の傷病
クラッシュ症候群

クラッシュ症候群は、阪神・淡路大震災において病院で死亡した方のうち最も多い死因でした。

災害時に転倒した家屋などに手足や腹部などが挟まり、その筋肉が長時間圧迫されることにより、筋肉を構成しているミオグロビンが大量に遊離して腎臓の尿細管を詰まらせるなど、急性腎不全などを引き起こすものです。

しかし、その症状は、血圧や脈拍、呼吸、意識などに異常が見られないことが多く、また、災害時特有の傷病であるため、重患者であること



袋井市医師会長
諸井進一郎医師

災害時医療活動にご協力ください

災害時、けがの治療をするため病院に行こうと思った時、どこに行きますか。

災害が起こった時、かかりつけの病院は閉まっています。治療を受ける場合は、まず、地域に設置されている救護所に向かってください。

救護所では、患者のけがの程度に応じて救護所で応急処置できるか、2次医療の市民病院などへ搬送するかなどを決めます。限られた資源とスタッフをフル活用して応急処置などにあたりませんが、救護所登録スタッフが不足しています。看護師など医療関係の資格をお持ちの方は、救護所従事者の登録をし、災害時に活動してもらいたいと思います。

救護所は、医療従事者だけが活動する場所ではありません。皆さんの協力が必要です。医療は、自分の役割ではないと考えるのではなく、市民がお互いに助け合い、みんなで災害を乗り越える袋井市を目指しましょう。

また、防災訓練は、救護所で実際に行われることを見られる機会です。皆さんも参加して、災害時の臨場感を体感し、災害への備えに役立ててください。

が見落とされる可能性が高くなります。そのほかに、圧迫された部位が触っても分らない、指が動かせないなどのまひや赤ワイン色の尿（ミオグロビン）が出るといった症状があります。

圧迫から2時間以上経過していたら、クラッシュ症候群の疑いがありますので、救護病院（市民病院）へ搬送してください。

また、救護所へ搬送した場合は、圧迫の状況を速やかに救護所の医療従事者に伝えてください。治療のできる救護病院などへの搬送を検討します。

「東海地震に対する災害医療 参照
安田清（県立総合病院）」

日ごろから

災害時への備えを

救護所には、災害の初期期を乗り越えるための医薬品などが備蓄されています。

また、救護体制として、袋井薬剤師会などの協力をいただき、医薬品の確保を行います。大規模な災害では、決して十分な量とはいえませんが、日ごろから、災害時の家庭救護に対応できるよう医薬品などの備えをお願いします。

日ごろから、災害時の家庭救護に対応できるよう医薬品などの備えをお願いします。

非常時の持ち出し品を確認

【非常持ち出し品の例】

- ヘルメット
- 食料（3日分）
- ラジオ
- 救急薬品
- 飲料水
- 手袋
- タオル
- 懐中電灯
- ちり紙
- 現金
- マッチ



【あると便利なもの】

- ウエットティッシュ
- ラップ
- トイレレットペーパー
- ビニール袋
- マスク

救護所従事者を

募集しています

災害時の医療救護活動を迅速かつ的確に行い、一人でも多くの「命」を救うためには、救護所で従事してくださる医療従事者の存在が大変重要となります。

市では、医師や薬剤師の方にご協力いただき、医療救護活動を行います。大規模な災害時にはより多くの医療従事者が必要です。災害時に医療チームの一員として、医療救護活動に参加していただける方を募集しています。

対象 保健師、看護師、助産師、准看護師など、看護師の資格をお持ちの方

申込方法 電話または、ファクス、Eメールで住所、氏名、電話番号をお申し込みください。

☎健康づくり政策課健康企画室
44-31380

FAX 44-3117

✉ kenkoudukur@city.fukuroi.shizuoka.jp

